

津山市監査委員告示第3号
平成30年12月26日

地方自治法第199条第7項の規定に基づき平成30年度の出資団体監査を実施したので、同条第9項の規定によりその結果を別紙のとおり公表する。

津山市監査委員 仁 木 実
津山市監査委員 津 本 辰 己

平成 30 年度

出資団体監査結果報告書

津山市監査委員

第1 監査の対象

市が資本金、基本金等の4分の1以上を出資している8団体の中から下記の団体を抽出して実施した。

団体名及び所在地 津山街づくり株式会社
津山市新魚町17番地
所 管 部 署 産業経済部 経済政策課

第2 監査期間

期 間 平成30年8月1日から平成30年12月20日まで
委員による聴取日 平成30年10月17日

第3 監査の範囲及び方法

平成29年度における当該団体にかかる出納その他の事務の執行が適正であるか、出資目的に沿った事業運営が行われているか等を主眼として監査した。

監査にあたっては、当該団体の事業の実施状況、決算状況資料の提出を求め、関係する諸帳簿等の調査のほか、関係者から説明を聴取するとともに、アルネ・津山の現地調査を行った。

第4 対象団体の概要

- (1) 設立年月日 平成6年4月28日
- (2) 設立目的 複合施設アルネ・津山の商業保留床の取得及び商業床の一括運営のため、津山市の第三セクターとして設立された。
- (3) 資本金 9億4,050万円
- (4) 主要事業
 - ・不動産の管理運営
 - ・駐車場等の経営及び管理(津山地域振興開発株式会社から受託)
- (5) 役員等の状況 代表取締役1名、取締役8名(代表取締役含む) 監査役3名
(平成30年8月1日現在)
- (6) 津山市との関係 津山市から5億5,000万3千円の出資を受けており、取締役に産業経済部長、都市建設部長が就任している。
津山市の公の施設である「音楽文化ホール・ベルフォーレ津山」、「津山市立文化展示ホール」、「津山市地域交流センター」の指定管理者となっている。
また、まちなかシネマ賑わい創出事業を受託している。

第5 監査の結果

対象団体にかかる出納その他の事務の執行については、概ね適正に執行されていると認められたが、一部において改善を要する点が見られたので、次のように要望する。

1 出資団体について

(1) 要望事項

電子商取引の拡大などによる商業施設の売上の低迷により、津山街づくり株式会社の経営は厳しい状況にある。関係各所と連携を密にし、新たなテナントの誘致や、集客力の向上、来館者の購買意欲の促進につながる施策に取り組むことにより収益の向上を図り、経営の健全化に取り組まれない。

会社の経理は、社員による業務内容の相互チェック、監査役による毎月の現金監査の実施など、内部での統制が図られ適正に処理されていた。しかし、その手法や、日々の支払いのために手元に置いている小口現金の取扱いについて明確に規定されたものは存在しなかった。不正や事務処理ミス防止のためにも、経理規程を整備し、適正な会計処理の徹底を図られたい。

2 所管部署について

(1) 要望事項

出資者として、津山街づくり株式会社の経営状態を十分に把握し、効率的な事業運営が図られるよう助言、指導を行うなど、経営の健全化に向けて尽力されたい。

公共施設と商業施設の複合施設であるアルネ・津山の調整役として、関係各所や商店街組合等と連携し、施設への集客力と回遊性を高め、アルネ・津山を含む中心市街地全体に賑わいを生む仕組み作りに取り組まれない。

アルネ・津山は建設から20年近くが経過し老朽化が進んでいることから、今後、施設の大規模修繕に備える必要がある。アルネ・津山共用部分のうち、市の管理部分については、津山市公共施設再編基本計画に反映し、津山街づくり株式会社と連携して、計画的に施設の維持管理を行われたい。

第6 監査委員の意見

津山街づくり株式会社（以下「街づくり会社」という。）は、市の中心部における市街地再開発事業により建設された複合施設「アルネ・津山」の管理運営を目的に、本市の第三セクターとして設置された会社である。

平成11年4月にオープンしたアルネ・津山は、商業施設に音楽ホール、図書館、文化交流施設、大型駐車場を併設した中心市街地の基幹となる複合施設であり、街づくり会社はアルネ・津山の管理のみならず、中心市街地の活性化に向けて、街づくりを総合的に調整・プロデュースしてきた。しかし、バブル崩壊後の長引く景気の低迷により個人消費が伸び悩み、アルネ・津山は当初の売上目標を達成できず、街づくり会社は赤字決算を続ける事態となった。

市はアルネ・津山を存続させるために、街づくり会社の抜本的な経営改善に着手し、平成17年に再建計画を実施した。債権放棄などの金融支援により金融機関からの借入金が消滅したことから、街づくり会社の経営状況は大幅に改善し、事業継続が可能な状態となり、今日に至っている。

現在、街づくり会社は、津山地域振興開発株式会社からアルネ・津山駐車場の管理運営を受託しているほか、「音楽文化ホール・ベルフォーレ津山」、「津山市立文化展示ホール」、「津山市地域交流センター」などのアルネ・津山内の公共施設の指定管理を通じて、中心市街地活性化の核であるアルネ・津山への集客性の向上を図るとともに、中心市街地の活性化に努めている。

平成29年度の決算をみると、平成29年にオープンした、津山市まちなか子育て支援拠点「親子ひろば わくわく」「一時預かりルーム にここ」や「津山まちなかカレッジ」との連携により集客を図り、既存店舗へのシャワー効果を進めるとともに、商業施設照明のLED化により電気代を削減した結果、営業利益が3期ぶりの黒字となっている。

アルネ・津山は建設から20年近くが経過し、施設や設備の老朽化が進んでおり、街づくり会社を取り巻く環境は厳しい状況にある。今後においては、商業施設の核テナントである天満屋をはじめ、図書館、ベルフォーレ津山などの公共施設に係る関係各所と密接な連携のもと、中心市街地の活性化や、賑わいを創出するとともに、テナントの誘致による収益の増加や、経費節減に努めるなど、経営の健全化に計画的に取り組まれない。